

2016 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [小平市立小平第四小学校] 担当教諭名 [吹越 菜央] (5年生 79名)

相手国・地域 [ウガンダ]

海外学校名 [Bembehill Primary School] 担当教諭名 [下倉 葵(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	8
	外国語活動	What do you like? (Hi, Friends! 1 Lesson5) What do you want to be? (Hi, Friends! 2 Lesson8)	8
	道徳	国際理解 「世界一大きな授業」	1

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	たった一つのまあるい地球～つながる空が結ぶ日本とウガンダ～
メッセージ (相手と一緒に 絵に込めた想い)	まあるい地球はたった一つで、そこに互いが存在し、生きている。また、空を見上げてみれば、その空は日本へ、そしてウガンダへとつながっている。文化や習慣、生活する環境は異なっても、私たちはたった一つのまあるい地球で共に暮らしている、「友だち」である。世界に「友だち」ができることの素晴らしさを感じ、共に地球を素敵な世界にしていこうとする決意を表す。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 相手国の文化や生活を知ることで、違いを受け入れる心を持ち、自国の良さに気付くことができた。 動画や写真、ワークシートを活用して、自分たちがウガンダの小学生と交流していることを実感し、世界を身近に感じることができた。 外国語活動と関連させることによって、英語を使う必然性に気付き、英語を話すことに積極的な姿勢が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 動画や写真に加え、テレビ会議などを活用することで同じ時間を共有でき、より交流が深まるとともに、児童の興味、関心を高められると感じた。 年間計画の中に、アートマイルプロジェクトの時間を確保することが難しい。そのため、様々な教科に関連させ、少しずつ取り入れていく必要があると感じる。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<ul style="list-style-type: none"> ウガンダの難民支援に関して興味を示し、新聞記事を切り取って考えを書いたり、交流しているウガンダの友だちを心配したりする声も上がり、世界情勢に目を向けられる児童が増えた。 世界の国々のことを知り、考える機会が増えたことで、自分にできることは何か、自分にできることをしたい、という思いをもてるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な交流活動を通して、世界と人と繋がることの楽しさを改めて実感した。 「難民問題」に関して、交流国との交流を通して私自身が更に興味をもち、児童に伝えたい、という思いが強まった。しかし、児童に伝えるにはまず、自分自身が学びを深め、情報収集を行う必要があると感じ、勉強するきっかけとなった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月 9月 10月	<ul style="list-style-type: none"> 世界ともだちプロジェクトとして割り当てられた「バヌアツ共和国」のことを知る。(元バヌアツ共和国青年海外協力隊の方を招いて出前授業実施) 「世界一大きな授業」に参加し、世界の現状を知る。 リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックを導入にして、「世界がもし100人の村だったら」のワークショップを行い、世界を取り巻く現状を体験的に理解する。 外国語活動と関連させて、交流国と自己紹介を行う。英語の助けとなるよう、イラストも取り入れたワークシートを使用する。(好きな食べ物、スポーツ、果物、教科) 	<ul style="list-style-type: none"> 日本とはまるで異なる国の生活について話を聞き、驚くとともに、「楽しそう。」「行ってみたい。」という声が多くあった。 世界の現状を体験的に学び、自分にできることは何かを考え、行動に移していくことの大切さに気付いた。 相手校から届いた自己紹介動画を見て、英語を一生懸命聞き取ろうとしていた。 相手国の子どもたちが書いた自己紹介カードが届き、実際に手に取って見ることで、興味、関心を高めていた。また、自己紹介カードからはほのかに香るウガンダの香りに興奮していた。 学んだ英語を何度も発音練習し、相手国の友だちに向けて自己紹介を行った。 	道徳 総合 外国語
共有 テーマ学習	9月 ～ 11月	<ul style="list-style-type: none"> 相手国の文化や生活について調べ学習を行い、自分なりにまとめる。 児童が調べきれなかった相手国の疑問をまとめて、相手国の先生に答えてもらう。 ウガンダの女性支援活動を行っている方の協力を得て、教師がインタビューを行い、ウガンダクイズを作成する。児童はそのクイズを通して相手国についての知識を増やす。 現地からお菓子や調味料が届き、実物を手に取って興味を深める。また、民族衣装を教室に飾り、常に見られるようにする。 学んだことを生かし、学習発表会で多くの人に対して劇を中心に発表を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分で調べ学習を行うことで、異文化や他言語の違いに気付き、まとめていた。 ウガンダクイズを通して、相手国についての知識を増やしたり、自国との違いに驚いたりする中で、相手国への興味を更に深めた。 現地の本物に触れることで、交流している意識をより高め、日本の教室にいながらウガンダを感じることができた。 世界をより良くしていくために自分にできることは何かを考え、行動に移すことの大切さを、劇にして発表することで多くの人に世界を知ってもらうことの大切さに気付いた。 	総合 外国語 学活
融合 メッセージ 壁画デザイン	11月 12月	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習したことをもとに、下絵を考え、いくつかの候補に絞る。それらを相手国の先生に送り、どんな思いが込められた下絵なのかを伝えた。 歌の交流を行う。「上を向いて歩こう」を英語と日本語で共に歌い、動画を交換する。 	<ul style="list-style-type: none"> これまで学習してきたことや、学習発表会で発表したことを振り返り、テーマに合った下絵を考えた。 動画の交換によって、同じ歌を歌うことで一体感が生まれ、相手国の友だちが日本語を一生懸命練習してくれていることを知り、嬉しそうにしていた。 	総合 学活
創造 壁画制作	12月	<ul style="list-style-type: none"> 下絵をデザインした児童を中心に、下書きを行った。数人ずつ色塗りをし、79名全員が携われるようにした。 壁画に同封する手作りカードを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> どの児童も積極的に準備や色塗り、片付けまで行っていた。 地図帳を見ながら細かく日本を描いたり、色合いを工夫したりして児童同士で相談しながら楽しく進められた。 紹介したい日本の文化をカードに表して作成していた。日本語だけでなく、自ら英語を調べてメッセージを書いていた。 	総合

評価 振り返り 自己評価	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りシートに今回の交流活動全体の感想を書く。 ・完成した壁画、これまでの交流で作成したものや教材、ウガンダの小学校から届いた写真を校内に掲示し、全校児童、教職員に活動の様子を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他学年の児童が興味をもって掲示を見にくる様子が見られた。 ・来校者や保護者にも活動の様子を広く伝えることができた。 	総合
--------------------	----	---	---	----

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入 (A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え (5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	相手国の文化について調べる中で、自国と比べたり、同じことに気付いたりして自国への理解を深めることができた。
異文化の理解	A	5	相手国だけでなく、世界の様々な国について知ることを楽しみ、主体的に調べたり、考えたりする児童が増えた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	A	4	外国語活動での活動を生かして、相手の英語を一生懸命聞いたり、自分も相手に伝えたい、という思いをもって自ら発音練習をしたりしていた。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	5	インターネットで調べたり、調べたことをまとめたりした。また、それらを生かして学習発表会で多くの人々に発信した。
人間関係をつくる (学級内・海外の相手)	B	3	紹介したい日本文化を表したデザインのカードを作成し、日本語だけでなく英語でメッセージを書いて送った。更に人間関係を構築するためには、テレビ会議を活用することが有効だと感じる。
協働する力 (役割分担・協力)	A	4	みんなで意見を出し合いながら協力して進めることができた。参加人数が多いので、分担を細かく決める必要があった。
学習を追究する意欲	B	5	学校での学習だけでなく、家庭学習でも相手国について自分が気になることを調べたり、新聞記事やテレビ番組から情報を得たりしていた。
表現力 (伝えたいことを言葉・絵で表す)	A	3	自己紹介や将来の夢など、どの活動においても言葉だけでなく絵を加えて表現した。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	B	5	完成した壁画、これまでの交流で作成したものや教材、ウガンダの小学校から届いた写真を校内に掲示し、全校児童、教職員に活動の様子を伝えた。